諫早市教育委員会議事録

令和５年第１２回（１１月定例）

令和５年第１２回（１１月定例）教育委員会

１　日　時　　令和５年１１月１５日（水）
　　１５時００分～１５時５０分

２　場　所　　諫早市役所　８階　会議室８－２

３　出席者　　教育長　　石部　邦昭
　　委　員　　原田　裕介
　　委　員　　山口　秀雄
　　委　員　　中野　高子
　　委　員　　小野　靖彦

４　会議に出席した事務職員
　　教育次長　　田島　正孝
　　教育総務課長　　江頭　大一
　　学校教育課長　　田上　顕二
　　生涯学習課長　　竹島　健吾

５　議題　　教育長の報告

１５時００分開会

議事録署名人の指名

原田委員と中野委員を議事録署名人に指名

議事録の承認

令和５年第１１回（１０月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

５点挙げている。まず１点目。「全国へ」、「全国で」というタイトルとしている。西諫早中学校が、県の駅伝大会で男女優勝し、２年連続全国大会に出場することになった。県大会は１１月９日、諫早市のトランス・コスモススタジアムを発着点とする県立総合運動公園周回コースで行われた。参加チームは、各地区予選２位までの男女ともに３２チームであった。

その中で女子は、２位に１５秒差をつけて優勝した。長大附属中学校がずっと先頭だったけれどもアンカーでひっくり返して、西諫早中学校が見事３年連続３回目の優勝を飾っている。なお、２位は長大附属中学校、３位は明峰中学校であった。

男子は、途中から抜け出し２年連続４回目の優勝を果たした。２位の対馬の鷄知（けち）中学校に１分１２秒差なので、大差で優勝を飾っている。もう１チーム諫早から出た明峰中学校は１１位であった。なお、西諫早中学校の男女は、１２月２日熊本で開かれる九州大会、１２月１７日滋賀で行われる全国大会に出場する。

そして、「全国で」ということで、有喜小学校の育友会が本年度優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰に輝き、１１月２４日東京のホテルニ

ューオータニで行われる表彰式に臨むことになっている。この賞は諫早市が６年連続で受賞しており、６年連続というところは他にはない。関係の皆様の努力の賜物であり、非常に素晴らしいことである。なお、長崎県ＰＴＡ連合会の前会長である諫早の山本道雄さんも、今回全国表彰を受けられた。

次に、小学校の体育大会が１１月１日、トランス・コスモススタジアムで行われた。２８校の６年生約１，３００人が参加している。開会式等に参加したけれども、子供たちが一生懸命競技を行っており、それを仲間たちが応援する。今まで声を出しての応援ができない時もあったが、大きな声を出して応援している姿を見て、大変嬉しく思った。開会式では、森山東小学校の青木くんが力強く選手宣誓をした。競技は予定通り行われ、大会新記録も飛び出した。

３番目、不登校対策。スクールソーシャルワーカーとの連携ということで、一般的にスクールカウンセラーという方々がいるけれども、それとともに今注目をされているのは、スクールソーシャルワーカーいう存在である。

昨日から今日にかけて、長崎県都市教育長会議が行われた。１３市の教育長が南島原市に集まり、昨日は会議、今日は研修視察があった。どこの教育長も不登校については喫緊の課題と考えており、今まで不登校が少なかった地域にも出てきているとのことであった。最近、小学生の不登校も増えてきているように感じる。不登校というと、中学生や小学校５、６年生の話というふうに捉えていたけれども、最近の把握しているデータを見ると、小学校低学年にも出てきている。非常に心配である。

なぜ不登校が増えてきたのかと考えたときに、自分の家のお兄さんやお姉さんに不登校がいると、「どうして自分だけが学校に行かなければいけないのか」と思ってしまい、行きたくないとなっているところがあり、そうすると親も行かなくていいとなっていることが１つある。

また１つは、ゲームにはまってしまい、スマホやパソコン、タブレット等のゲームが子供たちの学校の友達以上の存在になっているのではないかということである。さらに、不登校は全国的にも、県においても問題となっているので、報道機関も不登校について頻繁に取り上げており、どこでもあっていることと捉えられているのではないかと思う。

要因としてはいろいろとあると思うが、我々もいろいろな対策を練っている。まずは、学校の手立てが大事であり、学校で分かり易い授業をするとか、次のところで「主体的・対話的で深い学び」と

いう話をするけれども、子供たちが勉強は楽しいとか、わかりやすい授業で学びの深さを知るとか、そういうことがまずは必要と考えている。

それから、養護教諭を含めて生徒指導担当、保護者との連携をさらに強化していくことも必要である。市教委では、心の相談員を今年度から、小中連携という形で配置して対応するようにしている。小学校と中学校の心の相談員を同じ人にして、小学校から中学校に上がっても同じ人に相談できる体制をとっている。また、義務教育学校にすることによる中１ギャップの解消等もあるので、今後、学校改革の中で義務教育学校を進めていく。

不登校の児童生徒の出席扱いに関しては、諫早市はガイドラインを９月１日から施行している。フリースクールに通う子供から申請をしてもらい、教育委員会もそのフリースクールに実際に見に行って学習内容等を確認し、学校と同じような体制であると判断した場合は、最終的に校長の判断で出席扱いにできるようになっている。

また、オンラインで同時にというのは難しいのかもしれないけれども、自宅でオンライン授業を見て勉強すると出席扱いにするといったようないろいろな手立てを講じていっている。それでも、私は最終的には学校に戻すのが我々の務めじゃないのかなという思いがする。焦らずにいろいろなチャンネルを用意して、その子がどれか１つでもそのチャンネルに合うものがあって救われていくのであれば、それはそれで素晴らしいことだと思う。

そういう中にスクールソーシャルワーカーの配置がある。スクールソーシャルワーカーの１番の利点は、やはり福祉の専門家ということである。家庭・学校・地域の関係機関を繋いで、児童生徒の悩みや抱えている問題を解決する。学校の先生やスクールカウンセラーでは踏み込めない部分に踏み込んでもらう。そこをスクールソーシャルワーカーにやっていただきたい。

諫早市は、県派遣のスクールソーシャルワーカーが１名いるが市雇用はいない。他の市町でも雇用しているところは少ないが、長崎市、佐世保市は独自に雇用をしている。また、大村市も雇用をしているので、県にも県派遣の増員を働きかけるのと同時に、雇用している他市を参考にして諫早市でも市雇用のスクールソーシャルワーカーの来年度予算を要求し、少年センターに在中してもらって不登校の児童生徒の対応に当たってもらえればと考えている。

また、もう一つサテライト方式が考えられる。つまり、少年センターが中心部にあるが、諫早は東西に非常に広く、小長井や伊木力、大草から通ってくるのは大変なので、今後、相談員等の体制を強化

しながら、例えば、火曜日は何時から何時まで公民館で相談受付をする、といったサテライト方式での対応を考えていかなければいけない。不登校については、あらゆる手立て、解決策を探っていきたいと考えている。

４番目、主体的・対話的で深い学びについて。明日、飯盛中学校で研究授業があるけれども、今の新学習指導要領が小学校は４年目になる。中学校も３年目なので、授業の展開で言うと一番脂が乗っている時じゃないかと思う。皆さんがＩＣＴ等を使って一生懸命頑張っていただいているが、時々、昔の授業内容ではないかと思うようなこともあり、パーセンテージで言うと２、３％ぐらいだが、そういった面では各学校でもう１度授業を見直して、全員の先生が主体的・対話的で深い学びをできるようにお願いをしているところである。

５番目。教育委員が義務教育学校などを視察ということで、１１月７日から９日にかけて、教育委員会で行政視察を行った。東京品川区の区立八潮学園では義務教育学校の現状と取り組み、神奈川県の大和市では図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、こども広場などの複合施設文化創造拠点シリウス、また、東京代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターでは青少年たちの研修、交流事業や宿泊施設などを見学した。

私は八潮学園の時には別行動で、大阪の池田市役所の教育委員会に行き、義務教育学校の取り組みというものを視察した。池田市ではずっと前に子供が殺害されるといった事件もあったが、非常に教育に熱心で、そして、教育にお金をかけるというコンセプトで熱心に取り組んでいた。また、義務教育学校は大変勉強になった。本市では、まさにこの後、義務教育学校立ち上げようとしているところでもあり大いに参考になった。

今回の視察で、すぐに諫早市で応用できるものもあるが、市の人口や財政などの規模も違うし、いろいろと手続きもあるので、全部が全部ということにはならないと思うけれども、良いものは取り入れていくよう、その勇気を持ちたいと考えている。

視察の最後に、諫早修習館を見学した。私はもっと厳しい環境にあるのかなと思っていたが、都心にあり寮費も１万３千円で、あんなに良いところはないのではないかと思った。今日、来年度の学生寮の入寮の募集要項を見たけれども、男子１１名、女子１名の募集をすることになっている。特に、女子は１名なので激戦になり選考が難しいと思うが、大学等に合格をしてそこに行かないといけないので、寮が決まっていても大学が不合格になったり、東京ではない

別の大学に行ったりする人もいるので、最終的にキャンセルがでることもある。とても良いところなので、全部屋が埋まってほしいと思う。

《教育長の報告に対する質問・意見》
［委員］
　スクールソーシャルワーカーは、是非とも増やしていただきたい。私のところに不登校で相談に来ている子供は、母子家庭等でかなり厳しいところもある。お母さんが自分でいろいろなところを探して助けを求めるよりは、スクールソーシャルワーカーに入ってもらっていろいろなところを繋いでもらえると非常にありがたい。
　不登校にもいろいろあり、学習障害ではないけれども知能が境界値に近い子供たちも結構いる。そういう子供たちが、１年、２年ぐらいまでは何とかついていけるかもしれないけれども、その後ついていくことができなくなるので、ＩＣＴ教育には非常に期待している。今の日本の教育制度では、学校の先生は少ないし、みんなが同じレベルであるということが仮定されていて教えていくということが前提になっていくので、そこから落ちこぼれていく層がどうしても不登校になっていく確率は高くなる。
　また、不登校が長くなってしまうと、学力低下のためにさらに学校に行けなくなることが多いので、不登校になりかけの子は、学力を落とさないようにしないといけない。そういうところでも、ＩＣＴ教育が非常に有効ではないかと期待している。
［委員］
　不登校に関して、先ほど教育長からゲームという要因もあるという話だったけれども、私もメディアの講話に行く中で、最近小学校１年生を含めた低学年への講話の依頼が増えてきている。ゲーム以外にもＹｏｕ　Ｔｕｂｅ（ユーチューブ）とかＴｉｋ　Ｔｏｋ（ティックトック）とかそういうものから手を離せない子供がいる。また、事前に保護者アンケートを取ったりするけれども、たくさんの保護者が、取り上げると子供がキレるので、どうにかしてほしいという悩みを持っている。そのような子供たちが、学校に普通に来ている子供たちの中にも増えているという現状であることが１点。
　それと、保護者たちが子育てをする中で、ある日子供が学校に行きたくなくなったとお母さんに相談をする。そうすると、保護者はＳＮＳを使って情報を得るわけだが、子供の実践に任せるべきなのではないかというような意見も多々ＳＮＳ上にあるので、それならば行かせない方がいいのではないかと、積極的に選んでしまう保護

者たちもたくさんいるということもある。

もう１点、視察に行った国立オリンピック記念青少年総合センターでの話を聞いていると、学校以外の居場所作りであるとか、子供の自立とかいう根っこのところから考えていくことは、不登校を解決する手段になるのかなと思った。９月１日からの不登校に関するガイドラインが出されて、フリースクールが認められていくという中で、フリースクールの問題としてお金がかかるということ、保護者の送迎が必要であるということがあり、そこに行ける子供たちというのは家庭環境的に限られてしまう。そこで思ったのだが、オリンピックセンターの方の話を聞いていると、諫早青少年自然の家などで企画されている行事に積極的に参加をしてもらうという方向をもっと進めて、学校現場としても、教育委員会としても進めていくことで、子供たちは意外と固定された人間関係は苦手だけれども、その日だけで完結する人間関係とかだとありのままの自分を見せることができたり、そこで人間関係を築くことができたりすることもある。従って、体験を通じて子供に自信をつけてもらったり、子供が体験に参加している間に親と離れることができ、親も自分の時間が作れて一息つくことができたりという効果もあると思うので、是非、不登校対策という意味でも諫早や千々石の自然の家と連携していくことは大切なのかなと思った。

［教育長］

お金がかかるという話であるが、昨日からの都市教育長会議の中で、ある教育長が何万とかかるフリースクールもあると言われていた。お金がかかるとしても、保護者としては藁にも縋る思いでそういうところにという思いがあるかもしれないので、私達もフリースクールをしっかりと捉える必要があるという感じがした。

［委員］

行き場がなくなって家の中に籠っているというのは非常によくない。やはり外に出て行ける場所がいる。外に出て他の人と交わる。また、学校に何とか行って欲しいと思う親と、何とか自我を守るために頑張っている子どもが２４時間同じ部屋に籠って一緒にいること自体が、事態を悪化させていくと思うので、外に出て行ける場所を増やすという意味では、フリースクールという存在があった方がいいのではないかと思っている。

［教育長］

今後、財政支援とかいう話も出てくるかなと思う。

［委員］

中野委員が言われたように、少年センターもいろいろなやり方を

しているし、少年センターには行けないけど、行事だけは行っていますという子もいる。だから、そういうことをもっと増やしていただくよう、少年センターだけだと大変だと思うので、少年自然の家とタイアップしてもらうといいのではないか。

［教育長］

代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターがされているのを見て、諫早にも自然の家があるのでタイアップして、いろいろしてみるのもよいのではと感じた。

《学校教育課長の報告》

中学校部活動の地域移行について

《学校教育課長の報告に対する意見・質問》

［教育長］

実は、先日のＰＴＡ役員の方との懇談会の中で、地域移行の概要がよく見えないといったようなご意見をいただいたので、とにかく完成形でなくていいので、現状どんなことをしているとか、どういう動きになるのかとかを発出していこうということで、実際、お伝えをしている。今後も積極的に情報をお伝えしながら、適正かつスムーズに進むようしていきたい。

部活動の地域移行は、長崎県では長与町が進んでいると言われていたけれども、諫早も遅れは取ってないという感じでいる。諫早は、特にスポーツ系については、指導者の方がたくさんおられ、また、施設面でも非常に恵まれていると思う。ただ、子供を中心に考えなければいけないので、やりたい種目等ができるように手立てをしていかなければいけない。

［委員］

部活動の地域移行の話でよく出てくるのは、指導者に研修が必要ではないかということである。視察の後に諫早青少年自然の家ではどんなイベントをしているのか見てみたけれども、令和４年度も令和５年度も「部活動で行かせる指導法」というイベントが組まれていた。従って、今後、新たに研修を企画するのもなかなか難しいと思うので、そういうイベントがあることを周知していただければと思う。

［学校教育課長］

参考にさせていただき、是非進めたいと思う。

［委員］
　以前も質問したかもしれないが、中総体へのエントリーは地域のクラブでするのか。例えば、このクラブは大丈夫だとかいう認定みたいなことをしているのか。部活動の地域移行は、学校教育の一環であり、社会教育の一環であるので、教育という認識をもってしっかりとやっていただきたいと思う。
［学校教育課長］
　エントリーについては、県の中総体から加入しているチームで参加することになる。先ほど指導者の研修の話もあったが、我々も関わり方については今後検討することになる。過度な練習や健康を害するような練習、営利目的で高いお金が必要な活動、指導の在り方等に留意したい。特に体罰については厳禁であるというようなことについても、研修する場や伝える場などを検討していかなければいけないと思っている。

その他

教育総務課長
　１２月定例教育委員会の日程について説明

［委員］
　１０月の定例会の時にアゼンズ市と諫早市の繋がりという話が出ていたが、その関係で資料があったので配付させていただいた。資料は、真城小学校が３０周年を迎えたときに育友会が発行した創立記念誌から抜粋させていただいた。
［委員］
　最近、相談があったのは、地域のクラブに通っている子供で、練習して帰宅するのが遅くなるが、学校では９０分の家庭学習をするように指示され、宿題もたくさんある。そのため、なかなか学校に行けなくなってきたとのことであった。その子は非常に真面目な子なので、宿題に２時間かかかるが、その宿題が終わらないと気が済まないそうで睡眠時間が短くなっていた。母親が担任の先生に相談したところ、先生が「すべての宿題をしなくてもいい」と言ってくれ、その子は学校に通えるようになった。他にも宿題に一生懸命取り組んで睡眠不足になり、学校に行けなくなっている子供がいるよ

うである。
［学校教育課長］
　参考にさせていただき情報共有したい。
［教育長］
　部活動の２時間というのもどうなのだろうか。今後、地域移行すると、先ほど、指導者の研修の話があったが、勝ちたいがため練習時間が伸びることがないよう、子供たちの体は１つのなので、文武両道ができるような部活動でありたいと思う。
［学校教育課長］
　今、お聞きしたその子のように、一生懸命に学校に行かなければならないが、でも宿題をしなければならないし、好きなスポーツもしたいというような厳しい局面になることもあると思っている。中学校は部活動だが、小学校では社会体育になるので、学校とは完全に切り離されている中で、厳しい練習、長い練習が行われている可能性がある。地域移行については、小学校も関わることであり、地域との連携も必要になるので、子供の健全育成についても話題にしていきたい。

１５時５０分閉会

議事録署名（令和５年第１２回（１１月定例）教育委員会）

議事録署名委員

議事録署名委員